テイコプラニンの推定遊離型濃度に基づく

治療効果および安全性の評価

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

テイコプラニンは薬剤耐性菌に対して頻用される抗菌薬ですが、有効かつ安全な血中濃度を維持するために血中濃度の測定が必要な薬物となっています。テイコプラニンの血中濃度と効果や副作用との関連性を示した報告は多く、目標とする血中濃度の範囲もガイドラインに示されています。

また、テイコプラニンは血液中に存在するアルブミンというタンパク質と大部分が結合していますが、体の中でテイコプラニンが実際に効果を示すことができるのはアルブミンと結合していない「遊離型」という部分になります。テイコプラニンの遊離型は体内のアルブミンの濃度にて変動することが知られており、血中濃度が目標濃度でコントロール出来ていたとしても、遊離型濃度が適切な濃度となっているかはわからない状態です。

本研究では、テイコプラニンの血中濃度、アルブミンの値、遊離型濃度の関連性を調べた過去の報告をもとに、テイコプラニンの血中濃度から遊離型濃度を推算し、テイコプラニンの遊離型濃度と効果や副作用との関連性を調査することを目的としました。本研究により、テイコプラニンの薬物治療を実施する上で、より精度の高い有効かつ安全な治療が可能になると考えます。

【対象】

当院において 2018 年 1 月～2022 年 12 月の間にテイコプラニンを投与開始され、血中濃度モニタリングを行った患者さん。

【情報の利用目的及び利用方法】

テイコプラニンの遊離型濃度と効果や副作用との関連性を調査するため、カルテ情報の調査を行い統計学的な解析を行います。

【調査項目】

性別、年齢、体重、基礎疾患、合併症、テイコプラニンの投与量・投与期間、感染症名、処置実施状況、検出菌、併用薬、バイタルサイン、臨床検査値（WBC、PLT、BT、AST、ALT、ALB、UN、Scr、eGFR、PCT、CRP、Trough）

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【調査対象期間】
2018 年 1 月 1 日～2023 年 1 月 31 日

【利用する者の範囲】
研究責任者のみ

【試料・情報の管理について責任を有する者】
研究責任者

【研究期間】
実施許可日から 2023 年 12 月 31 日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【研究責任者】
川端　俊介
関西労災病院　薬剤部
〒660-8511　兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69
TEL: 06-6416-1221（代表）
FAX: 06-6419-1870（代表）
E-mail：kawahata-shunsuke@kansaih.johas.go.jp